

ここ1年程前から爆発的な“韓国ブーム”いわゆる「韓流(ハン流)」ブームである。特にオバサマ族の間ではすごい人気である。その火付け役はもちろん、ヨン様(ヨンシー)こと、韓国の美男優ペ・ヨンジュン。韓国の連続ドラマ「冬のソナタ」が日本で放送されてからは、あっという間にオバサマ族のアイドルになった。切なく悲しい純愛ドラマなのだが、「微笑みの貴公子」とも呼ばれるヨン様のやさしさと、清楚で悲しげで一筋の涙が似合う「涙の女王」女優チェ・ジウのはかなさとが相まって、爆発的な人気を得た。ヨン様を始め四天王と言われる韓国人気男優達の作品が次々と放映されだして、「韓流」の大きなうねりとなった。

きざしは確かにあった。韓国の日本文化解禁に伴い日本でも公開された「シュリ」、「JSA」等の韓国映画や男優が若い女性の間で話題になっていたが、NHKテレビで「冬のソナタ」が放映されてからは、ファンの年齢層がぐっと上がった。その中に我が家の“座敷豚”殿も入っていた。あの主題歌が流れるだけで、もうメロメロ状態。まるで「パプロフの犬」みたい。

韓国のTVドラマの特徴は次のとおり。

- * 放送コードが厳しく、意外に純情でキスシーンさえ少ない。親子で見ているも照れずにいられる。
- * すれ違いが多くて、イライラしてしまう。すぐ隣に居たじゃないか!
- * はっきりと理由(言い訳)を言わないから、誤解が誤解を生んでしまい、ますます苦しい立場になる。(特にチェ・ジウはもっとはっきり言い訳すればいいのと思う)。
- * たいてい三角関係だ(もっと複雑な場合もある)。
- * 主人公の誰かには出生の秘密がある(それは主人公達の純愛に比べ、彼らの親達が不純であったことになるが)。
- * 難病になるか、事故で記憶喪失になる。
- * 主人公達は皆エリート的な職業についているのに、余り働いていない。大事な仕事を放り出しても、恋愛を最優先にしている。
- * 何故か恋人と別れて海外留学に行くことが多い。

「冬ソナ」などの韓国純愛ドラマは、昔の山口百恵主演のTVドラマ「赤いシリーズ」や戦後の名作「君の名は」に似ているともいわれる。スタイルが古臭いとも言う。でも、忘れていた「純愛」を思い出させてくれて、生きる勇気を与えてくれたと泣くオバサン族も。実生活では、わくわくどきどきすることもなく、このまま年を取って行くのだろうか、毒舌漫談師の綾乃小路公麻呂にネタにされていたオバサン族の心に響いたのだろうか。

やさしい声もかけてくれない亭主や言うことをきかない子供達を当然のように放り出して、「ヨン様!ヨン様!」である。

ヨン様が出るCMの商品は売上を伸ばし、「冬ソナ」のロケ地めぐりのツアーはどれも満員。ロケ地のひとつであった春川市とたまたま姉妹都市の岐阜県各務原市はドラマの名場面を再現して、オバサマ族の名所になった。NHK韓国語講座が「冬ソナ」のシナリオを教材にしたり、番組の後に講座の宣伝をして、受講者を増やしている。

今度は、完全版「冬ソナ」を放送するという。「おい、今までののは一体なんだった。同じネタを何回も使うなよ」と言いたくなる。

ヨン様の少し厚化粧が気になる。やさしい顔と対照的に肉体改造で筋肉隆々の体にして写真集を発行した。一万円以上もするのにあっという間に完売。ヨン様ブームやその便乗商法はまだ当分続くようだ。

さて、我が家の冬ソナの始まりは、私が最初にはまった後から我が家のオバサン族が見事にはまった。私はもちろん「涙の女王」チェ・ジウのファンである。あの悲しげで伏目がちで、親しみの持てる美人顔、きれいに一筋流れる涙、時々少しとがらせるかわいらしい唇、170cm以上のすらりとした長身(韓国男優の第一条件は180cm以上だから、それに見合うだけの長身の女優が必要)、清楚で控えめで言い訳しない性格(ドラマでの)云々・

この夏、予算要望で国交省に市長等のお供をした時、石原大臣を表敬訪問した日韓観光大使に任命された木村佳乃とチェ・ジウを見かけた。生チェ・ジウである。とっさに携帯電話(カメラ付)を探したが、黒っぽい細身のスーツ姿はあっという間に大股で颯爽と通り過ぎた。

「冬ソナ」では、可憐な高校生の役からバリバリのキャリアウーマンを演じていたが、他のドラマも同様に「はっきりと理由を言えばいいのに」と見ている側をイライラさせていた。一見弱い女性のような感じのチェ・ジウを、ヨン様演じるミニヨンが「僕が動かないポラリス(北極星)となって君を守る」という構図なのだが、結局揺れ動いているのはミニヨンで、彼女はずっと動かずミニヨンを愛し続けた強い女性だった。「美しき日々」でも苦学の美大生役で、自分を犠牲にしても妹をけなげに守りながら、複雑な恋愛関係にもつれて、苦悩する女性を演じている。新作映画「誰にでも秘密がある」では少し役柄が違うようであるが、チェ・ジウの新たな面が見られるようだ。

さてさて、ヨン様に走るオバサンと、チェ・ジウを見つめるオジサンは互いに相手に無いものを求めているは、その視線は決して交わらないだろう。(もっと現実を、いや、このまま夢なら覚めないで！)

今話題の漫談芸人「ギター侍」波田陽区風に言えば、ところで私の名は『よしお』だから、『ヨン様』ならぬ『ヨシ様』なんですけど。『切腹！』